

平成24年7月

水稻栽培者の皆さま

セシウム吸収抑制のための 中間追肥の実施について

4月より「一般食品に含まれる放射性セシウムの新たな新基準値は1キログラムあたり100ベクレル」となりました。

土壌中の交換性カリ含量が低い水田土壌(土壌改良資材や基肥を控えている水田など)では、カリを施用することで、放射性セシウムの玄米への吸収を抑制する効果が期待できるとされています。

また、分けつが最も多くなる時期や幼穂が形成される時期は水稻がカリを最も必要とする時期です。根の活力維持を図るためにも、下記の時期、施用量を参考に中間追肥を実施しましょう。

【中間追肥】

時 期

出穂前40日(出穂50~30日の間)頃

施用量の目安

ケイ酸カリ(約30kg/10アール)
または
塩化カリ(約10kg/10アール)



お問い合わせ先

桐生地区農業指導センター
電話:0277-76-2047

桐生市 産業経済部 農業振興課
電話:0277-46-1111(代表)

JAIつつみどり みどり地域本部 営農課
電話:0277-74-5621